

武蔵大学と茗溪学園中学校高等学校が 高大接続・高大連携に関する協定を締結

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）と、茗溪学園中学校高等学校（茨城県つくば市／校長 宮崎 淳）は高大接続・高大連携に関する協定を締結しました。また、武蔵大学国際教養学部と協定に基づく具体的な連携事業に関して覚書を取り交わしました。

協定及び覚書は、相互の連携により学校教育の充実及び発展、人材育成等に寄与することを目的としています。

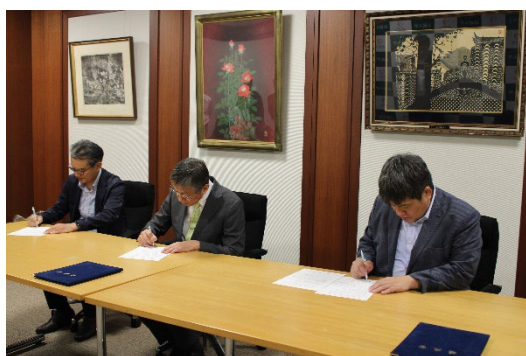
9月3日、武蔵大学で行われた締結式では、茗溪学園中学校高等学校の宮崎 淳校長と本学 高橋徳行学長及び東郷賢国際教養学部長が協定書及び覚書に署名し、今後の高大接続・連携に向けて意見交換が行われました。

茗溪学園中学校高等学校との協定に基づく連携事項

主な連携内容は次の通りです。

- （１）教育・研究関連
- （２）「総合的な探究の時間」や「ゼミナール」等における学習支援
- （３）授業、実習及び入学者選抜等の高大接続・高大連携の円滑な推進
- （４）教育・研究、進路についての情報交換、交流等
- （５）主に国際教養学部との進路説明会及び類似する各教育活動、並びにキャリア選択に関わる教育機会に関する連携事業

武蔵大学国際教養学部において提供している「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム（通称PDP）」と茗溪学園中学校高等学校の先進的な国際教育や国際バカロレアカリキュラムとの親和性は高いと考えています。本連携事業を通して相互における国際教育の発展とともに中学生・高校生の成長に寄与し将来のキャリア形成における選択の一助として貢献できるよう連携を強化していきます。



＜締結式の様子＞



＜（前列左から）武蔵大学高橋学長、茗溪学園中学校高等学校宮崎校長（後列左から）茗溪学園中学校高等学校清沢入試広報部長、武蔵大学古瀬学長補佐兼アドミッションセンター長、国際教養学部経済経営学専攻鈴木アカデミックダイレクター、国際教養学部東郷学部長、茗溪学園中学校高等学校井上学長補佐、茗溪学園中学校高等学校重光進路指導部長＞

■ 茗溪学園中学校高等学校 筑波大学の前身である東京教育大学の同窓会「茗溪会」によって設立

茗溪学園中学校高等学校は、筑波研究学園都市の研究者の子どもたちの教育を目的に、東京教育大学同窓会「茗溪会」により1979年に設立された。「世界的な視野を持つ人材の育成」を建学の理念とし、国際理解教育を重視している。2017年にはIB認定校となり、帰国生や留学生とともに学ぶ国際的な環境が整っている。卒業生は海外の有名大学に多数進学し、奨学金を得る生徒も多い。今後はSSHや探究活動のさらなる充実、国内外の教育機関との連携強化、留学交流の拡大を通じて、世界に開かれた学校としての発展を目指す。

■ 武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開校され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開校し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

2027年4月には、データサイエンス系の新専攻として社会学部に「情報社会デザイン専攻」、国際教養学部「ビジネスデータサイエンス専攻」の設置を予定している。

建学の三理想

1. 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
2. 世界に雄飛するにたえる人物
3. 自ら調べ自ら考える力ある人物

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報室 担当:増田・五月女（ますだ・そうとめ）
TEL:03-5984-3813 E-mail:pubg-r@sec.musashi.ac.jp